きずな

いのち。つながるマガジン Vol.5
2014.1

福井県美浜町・丹生白浜海水浴場と美浜原発。
夏になると多くの家族連れで賑わいを見せる
この海は、原発停止後、水温を3℃も下げた。

念仏者として、いま私たちにできること

一九五九年、茨城県東海村に日本で初めて原子力の火がともった。

効率的かつクリーン、しかも安全であるとされた原子力発電は、〝夢のエネルギー〟ともてはやされ、高度経済成長によって増加した国内の電力需要を満たしてきた。その後も、〝夢のエネルギー〟に対する依存度は高まり続け、二〇一〇年にはおよそ三〇%もの電力を原子力発電で賄うようになる。

日々、大量の電気を消費して生活をする私たちにとって、原子力発電は欠かせないものであるかのように見えた。ところが、二〇一一年三月十一日、その存在意義を揺るがす事故が起きた。

福島第一原子力発電所事故

東日本大震災に起因するこの事故は、私たちに大きな疑問を投げかけた。

「原発とは一体何なのか?」

いわゆる〝安全神話〟のもとで、これまで私たちは原子力発電の真相を検証してこなかった。しかし、多くの方々が直接的・間接的に放射能被害に苦しむいま、このことから目を背けることは許されないだろう。

浄土真宗本願寺派長野教区では、原発問題を念仏者として取り組むべき〝いのちの問題〟と位置付け、研修会を重ねてきた。今号ではその内容をご紹介する。

第15回平和を願うつどい

日時：2013/9/17(水)
場所：築地本願寺
概要：高岡教区主催・第15回「平和を願うつどい」は、千鳥ヶ淵「全戦没者追悼法要」にあわせて開催された。
これまで、全戦没者を悼むこと、平和を願うことの意味を様々な角度から学び続けている。

P2

長田 浩昭さん
真宗大谷派法伝寺住職（兵庫県篠山市）
原子力行政を問い直す宗教者の会事務局

社会問題現地研修会

日時：2013/10/7(月)～8(火)
場所：福井県敦賀市（敦賀原発、美浜原発、高速増殖炉もんじゅ、明光寺、西誓寺）
概要：実践運動教区委員会・社会問題部会の主催で開催された社会問題現地研修会。原発ならびに関連施設の見学、現地のご住職方の講演を通して、「念仏者として原発問題を考える」ことを目的に行われた。

P3

岡山 巧さん
真宗大谷派西蓮寺住職

立花 京子さん
浄土真宗本願寺派明光寺住職

「内部被ばくを生き抜く」上映会・鎌仲ひとみ監督講演会

日付：2013/8/4(日)
会場：本願寺長野別院
説明：原発事故後の内部被ばくの時代をどう生きるか。専門家と福島からのメッセージが詰まった映画「内部被ばくを生き抜く」の上映会並びに講演会を行った。

P4

鎌仲ひとみさん
早稲田大学卒業後、フリーの映像作家としてテレビ番組、映画を監督。

第15回平和を願うつどい

原発と国家 －核武装への歩み－

長田浩昭さんの提言

電力不足を理由に原発の再稼働申請がされているが、そもそも原発問題は電力の問題ではない

福島の事故以降、「15%節電しなければならない」とされた夏が3度過ぎたが、停電はおろか、電気が足りなくて困ったという事例もほとんど聞かない。それもそのはずで、電力には十分余裕があり、浜岡原発5基が止まっている中部電力では、422万kWもの余剰電力がある。

電気事業連合会「平成22年版 電気事業便覧」より

（単位：万kW）

一般電気事業者	供給能力（発電設備）	供給能力（他社、他エネ等から）	供給力（発電＋他社）	第一次	
北海道電力	634	584	547	77	
東北電力	1,321	1,275	1,260	-59	50HZ
東京電力	5,608	4,574	3,500	109	
中部電力	3,059	2,324	2,037	422	
北陸電力	922	622	526	96	60HZ
関西電力	2,917	2,424	2,504	-44	
中国電力	1,425	1,212	1,135	290	
四国電力	595	528	550	46	
九州電力	1,777	1,601	1,569	108	
沖縄電力	224	224	144	80	

では、なぜ原発を動かそうとするのか？それは、核兵器開発の潜在的能力を維持するためである

石破茂・自民党幹事長の「原発のウェイトを減らしていきながら、再生可能エネルギーのウェイトを高めていく方向性に異存はないが、核を作ろうと思えば作れるという抑止力を放棄すべきではなく、原発ゼロの考え方には賛成できない」というコメントからもその意図は明らかである。

“原子力の平和利用”ということで始まった原発事業だが、当初より核兵器開発のポテンシャルを高めることが目的でもあった

1956（昭和31）年に創設された科学技術庁の設置案第1条に「核兵器を含む科学兵器・原子力の開発研究を目的とする」と書かれていた。また、原発事業を推し進めた岸信介元首相は「日本は国家国民の意思として、原子力を兵器として利用しないことを決めているので、平和利用一本槍であるが、平和利用にせよ、その技術が進歩するにつれて兵器としての可能性は自動的に高まってくる」と述べている。

私たちは、仏の願いに応答し、人間として立ち上がらなければならない

親鸞聖人は、教行信証に涅槃経を引用し、「慚（ざん）は人に羞（は）じ、愧（き）は天に羞（は）ず。これを慚愧（ざんき）と名づく。無慚愧は名づけて人とせず、名づけて畜生となす。」とお示しになられた。そのお心を深く考えて行動していかなければならないだろう。

社会問題現地研修会

敦賀市名子は、敦賀湾を眼前に臨む風光明媚な漁村だ。明光寺ご住職の立花京子さんは、日本原子力発電敦賀原発から一〇㎞ほどのこの地に嫁がれて以来、三五年にわたって原発の是非を問うてこられた。当初は、「お衣を着ている人が何をいうんや」と非難されたこともあったようだ。しかし、「お衣を着させていただいている身だからこそ、見て見ぬふりはできない」と、二〇年前に前住職であったご主人を亡くされたのちも、その遺志を受け継いで声を上げ続けておられる。

明光寺のある集落には、「原発ノーという人はほとんどいない」という。「『原子力の平和利用』というスローガンのもと、誇りを持って原発事業を推し進めてきた」経緯や、「地元漁師へ莫大な補償金が給付されている」現状がそこにはあるようだ。そんな孤立無援の中で、立花さんがはじめに取り組んだのは、境内地に咲く紫露草の観察だ。原発のある北からの風が吹く日には、紫露草の花びらにピンク色の斑点が多くみられることに着目し、毎朝五時前にピンク色の斑点を数えては、天候・風向とともに記録してこられた。放射線量との因果関係は科学的に立証されていないが、「線量計を借りてきて、斑点の数と放射線量を比較したら、ぴったり一致した」という。しかし、そのデータを公表してもなお、地元の反応は「そんな観測ごっこみたいなもの」、「あの人は変わってる」と冷ややかなものだったようだ。

そのような状況にあって、立花さんはなぜ脱原発の活動を続けるのか。答えは至ってシンプルだった。

「念仏者として、いのちに関わる問題を考えていくのは当然のこと」

また、こうもおっしゃった。

「原発賛成・反対の二分律で互いを否定しあうのではなく、原発について本当に正しい情報を共有して、ともに考えていきたい」と。

◆

敦賀市古田刈の西誓寺は、庫裡の改築事業の真っ只中であった。ご住職の岡山巧さんは、「自分でできることは自分でやろう」と、押し入れや天井裏の壁をご自身で塗られている。「真ん中はきれいに塗れるが、端はどうしても雑になってしまう」という壁塗り作業を通して、「原子力行政は、素人の壁塗りみたいなもの」だと思われたそうだ。「電力を大きく消費する東京などの大都市は安全に保たれ、遠く離れた場所にばかり危険な原発を押し付けてきた」からだという。確かに、東京から最も近い茨城県東海村の東海第二発電所でも一二〇㎞離れている。

正信偈に"普放無量無辺光"という一節があるが、岡山さんはそれを引用されて、「隅々までまあまねく照らす。それが仏さまのお心だと教えられた」そうだ。

「人間は端っこを作ってしまう。しかし、念仏の教えをいただく私たちは、そこに思いを致し、考えていかなければならない」—

◆

私たちは、権威筋から発信された情報を盲信してしまう性質を少なからず持っている。福島原発の事故直後、原子力の専門家たる学者たちが「炉心溶融はありえない」と口を揃えていたとき、一体どれほどの人が現在の状況を予想できていただろうか。

今回、お二人の講演をお聞きして、私たちのその性質が原発の安全神話を作りだしてきたことに気づかされた。「国策として原発事業を推進する上で、メリットばかりをことさらに喧伝して、都合の悪いことは知らされなかった」と立花さんがおっしゃっていたが、原子力発電のメリットを盲信して、ネガティブな面を捨象してきた私たちにも責任はある。「権威や固定観念に捉われず、自分自身の判断で与えられた情報の確からしさを見極めていくこと」

これこそが原発問題を考える第一歩なのかもしれない。

（取材・寺尾拓路）

紫露草

映画 内部被ばくを生き抜く

去る二〇一三年八月四日、本願寺長野別院で鎌仲ひとみ監督のドキュメンタリー映画「内部被ばくを生き抜く」を上映した。年齢も経験も異なる四人の医師が、被ばくに関する医療活動を通じて感じたことや被ばくに対する想いを語るドキュメンタリー映画だ。放放射線量の高い地域に住む人々の声も生々しく、東日本大震災、福島第一原発事故が日本に残した傷を再認識させられた内容であった。

映画の冒頭で肥田舜太郎医師は言う。

日本人がいかに
放射線について無知か。
大衆だけじゃない
政府も学者もみんな無知なんだよね。

私も自分の無知を思い知ったうちの一人だ。今回映画を紹介することで、内部被ばくについて、少しでも自分事として捉えて考えてもらえればと思う。

低線量内部被ばくとは？

映画のテーマは、"低線量内部被ばく"。花粉のおよそ百分の一の大きさである放射性セシウム。大きさは約〇・一ミクロンといわれている。その放射性セシウムが空気中や食物を通じて体内に入ると、筋肉や乳腺、生殖腺、膀胱などに留まり、そこでガンマ線という放射線を出し続ける。結果、私たちの体は低線量内部被ばくし続けることになるのだ。劇中ではこの低線量被ばくによる健康被害について警鐘が鳴らされている。

低線量内部被ばくがもたらす健康被害

たとえば低線量内部被ばくがDNA修復の妨げとなり、癌の発症を誘発する。老化の原因とされる活性酸素が増加し、動脈硬化、脳梗塞、高血圧等になる確率を引き上げる。放射線によって細胞に顕著な変化が起こり、さまざまな疾患を引き起こしやすくなる——。

映画を観るまで思いもよらなかった健康被害の話に、私は自分の低線量内部被ばくに対する意識の低さに辟易としてしまった。

福島に暮らす人々の声

映画では四人の医師の他に、印象深い登場人物がいる。それは福島に暮らす人々だ。彼らの放射線に対する関心は非常に高く、リスク対策にも余念がない。劇中では、二本松市の幼稚園と、平田村の病院について取り上げられている。いずれも福島原発からおよそ五十キロ離れた地域である。

二本松市で三百年以上続くお寺の幼稚園園長をしている佐々木道範さん（真行寺副住職）は、放射線から子どもたちを守るため、事故以来幼稚園の除染に取り組んでいる。屋根を全て張り替え、園庭の表面から土をはがす。子どもたちを守りたいという強い意志を感じる行動である。また、独自の放射線計測室を開設し、さまざまな食品の線量を毎日計測している。勿論、子どもたちに放射性物質ゼロの食品を与えたいという願いが原動力だ。

福島県の南東部に位置する平田村のひらた中央病院では、ホールボディカウンタ（内部被ばくの状態を検査する機械）を購入し地域の人々の内部被ばく検査を行っている。十八歳以下の診察料を無料とし、より多くの人々が検査を受けられる体制を整えたひらた中央病院。理事長の「我々は放射能に関してはどんどん検査をやっていく。どういう批判でも甘んじて受けます」という言葉が印象深かった。

内部被ばくを生き抜くには

低線量内部被ばくの影響は、時間の経過とともに出て来るといわれている。ただし、どのような影響や症状があるのかは、未だにはっきりしていない。さまざまな情報が錯綜しているのだ。その中には憶測もあるかもしれない。だからこそ、単一的な視点だけで内部被ばくを知ることが、私は一番恐ろしいことだと思う。さまざまな側面を客観的に見つめることが、低線量内部被ばくに対する知見を広めてくれる。劇中では医療の声・福島の今が丁寧に描かれており、プロパガンダ的な作品ではなくドキュメンタリー映画として上質な作りである。低線量内部被ばくを知るモーメントのひとつとして位置づけられる作品と思えた。

映画を通じて、低線量内部被ばくの可能性が日常に潜んでいるという自覚の重要性を感じた。ホールボディカウンタでの定期的なチェック、食品の放射能汚染に対する認識、定期的な保養など、できることはたくさんある。まずは出来る事から始めよう。そして、日々生きていく中で低線量内部被ばくのこと、原発のこと、震災のことをほんの少し頭の片隅に置いておきたい。今の日本を生きていく上で、それがとても大切なことのように思える。今回の記事が低線量内部被ばくを知るひとつの側面となり、自身の暮らしを今一度見直し、「いのち」を考える契機となることを切に願って。

（文・朝比奈利奈）

原発問題に関する意見交換会

―平成25年11月11日　本願寺長野別院において―

座　長　麻山智晃さん（行事広報専門部会部長・河東組　明徳寺住職）

参加者　嶋倉徳子さん（河東組　圓長寺坊守）
外立美咲さん（松本組　西生寺衆徒）
水口眞吉さん（川中島組　長圓寺門徒）
宮本祐慈さん（川越組　命徳寺衆徒）
柳川眞澄さん（松本組　善福寺住職）

麻山　今日は「原発問題に関する意見交換会」と題して、座談会を企画させていただきました。長野教区では、八月から十月まで三回にわたって原発問題についての研修会を行ってきました。お集まりの皆さんには、各研修会にご参加をいただき、ともに原発問題を考えていただいだところでございます。それぞれにいろいろなご感想・ご意見がおありでしょう。今日は率直なところをお話しくだされば思っています。よろしくお願いします。

さて、まずはじめに研修会に参加されたきっかけをお聞かせください。

嶋倉　以前より東北の災害支援ボランティアに参加していました。東北は行くたびに、少しずつですがよくなってきているんです。その一方で福島を見ると、家は壊れていないし畑もそのまま。だけど、人は住めない。そんな原発の目に見えない怖さを知って参加しました。

外立　内部被ばくについて、マスコミからは得られないような情報を知る機会がありました。私も子どもを持つ母親として、一番影響を受けやすい子どもの将来のために、もっと考えていかなければいけないんじゃないかと思ったことがきっかけです。

麻山　子育てをしているお母さんにとっては深刻な問題ですよね。

水口　私はかつて電力会社に勤めていました。いわゆる原発推進派・反対派ということでいえば、推進する側でした。しかし、違う立場の人の話も聞いてみたいと思い、参加をさせてもらいました。

柳川　二〇〇一年九月十一日のアメリカ同時多発テロの直後に、柏崎刈羽原発まで現地研修会で行きました。実は、その日に汚染水が少し漏れたようなんです。ところが、そのことが大きく取り上げられることはなかった。翌日の新聞に小さな記事が載っただけ。しかも、全く問題ないんだと書かれていました。それ以降、原発の問題を学習しなければならないという思いを強めました。

麻山　私も二度にわたって研修会に参加しましたが、本当に無知だったなと思い知らされました。マスコミや学者のいう「原発がなければ、電力も経済も回っていかない」というのを半分信じていたようなところもあったんですけど、実際に現地で見聞きするなかで、いろいろなことが分かり、改めてより深く考えなければいけないと感じました。

皆さんも研修を通して初めて知ったことや驚かされたことがあったかと思います。それについてお聞かせ願います。

外立　原発がひとつも動いていない状態でも、私たちの生活に影響がないこと。つまり、この原発の再稼働が電力の問題ではなく、政治的な問題であることを長田先生がお話しくださいました。私が知りえた情報の中では、そういった発想がありませんでした。数多くの情報の中で、自分はどれを信じていったらよいのか。講演をお聞きして、また現地の方と話しをすることでわかってきたような気がします。

水口　先ほどから申していますが、立場が違う人の意見をどうやって聞き取るかということが大事だなあと。いままで社内では聞けなかったことをたくさん聞けました。私は物理学者ではないから、現象について正しい判断はできない。立場が違う人の意見の中にも、確かなものがあるんだと認識しなくてはならないなと感じました。それから、現地に行って改めてわかったのですが、冷却水の確保などの理由はあるにしても、あまり開発されていないところを選んで原発が作られている。危険性をわかっていながら進められていったんじゃないですかね。

柳川　敦賀で立花さんから紫露草の話を伺いました。紫露草の花は放射能に反応して色を変えるそうです。私たちは証明されなければなかなか認めることができない。目に見えない怖さを感じとり、伝えていく。そのことの重要性に気づかされました。

嶋倉　一番驚いたのは、原発ってこんなにあるんだということ。また、いま原発を止めても問題が解決するまでにとても長い時間がかかるということも知りました。どちらもこれまで考えてこなかった、知ろうとしてこなかったことです。それから、東京オリンピック招致のスピーチで「東京は二五〇キロ離れているからないから大丈夫」というような発言がありましたが、これには驚きました。福島のことはどう考えているんでしょうかね。

麻山　確かに、原発が日本にこれだけあることは、福島の事故があるまで気にしてこなかったですね。宮本さんは生まれたときから原発があるわけですが、いかがですか。

宮本　小学校の社会の授業で、原発とはこういったものだというのを勉強しました。燃料のごみを何万年も地中深くに埋めなければいけないことなど、危険な部分についても教科書には書いてあったんですけど、二酸化炭素を出さないなどの点で、火力発電より優れていると教え込まれてきたんです。研修ではその危険性を学びましたし、何より原発の推進が電力会社の考えだけではなく、政府の思惑によるものなんじゃないかと気づかされました。

麻山　いろいろなお気持ちを聞かせていただきました。

お念仏の教えをいただく我々にとって、原発問題はいのちに問題としても捉えていかなければなりません。研修を受けて、今日からどのようにこの問題と関わり、どう生きていったらよいでしょうか。

水口　連研の中央教修で、私は「浄土真宗のみ教えのもと、世間体や風評に惑わされずに生活をします」と誓いのことばを述べてきました。こちらの人はこう言い、あちらの人はこう言うけど、親鸞さんだったらどう考えたのかと。私の行動の基本にあるのは、「差別をしない」ということです。違う立場の人の意見を聞き、違う境遇にある人を思いやる。自分に何ができるかはわからないけど、そんな気持ちでやっていければいいかな。

外立　水口さんもおっしゃっていますけど、様々な立場の人がいます。原発によって生活をしている方、原発で必死に作業をしている方、いろんなところに目を向けていかなければいけないと思います。その中で、見えているものだけにとらわれず、自分に何ができるのかを考えていきたいです。

宮本　生きていくうえで、自分たちはどうしても楽がしたいと考えます。そのためにいろいろなものを犠牲にしてきている。その結果がこのような問題につながっているような気がします。ひとりひとりが「自分はどうしていくべきなのか」と考えることが大事だと思います。このままでいいのかと振り返るいい機会になりました。

嶋倉　原発問題に限らず、いのちが失われることはとても悲しいことです。ひとつひとつのいのちがどれも大切で、そこに軽重はありません。どのいのちについても、分け隔てなく同じように考えていきたいと思います。

柳川　大谷派の岡山ご住職が、水俣病の研究をされた原田正純さんの言葉を引かれて、「中立とは弱い立場に立つこと」とおっしゃいました。これは、そのままお念仏の教えに通ずるところです。私たちは、とかく真ん中に立てば中立であると考えがちです。しかし、原発問題をいのちの問題と考えたとき、はたしてそれでいいのでしょうか。弱い者の立場に立って一緒に歩んでいく。なかなか難しいことですが、それこそが念仏者の姿勢であると思います。

麻山　知らなかったことを知った。その上でどう動くか。そのことが重要なんだろうと思います。

皆さんには貴重なご意見を聞かせていただき、ありがとうございました。（取材・寺尾拓路）

きずな Vol.5 2014 1

活動の記録

2013年 長野教区の復興支援活動

長野教区では震災から約三年間、19回にわたって東北へ赴き、復興支援活動を続けてきた。

2013年は初めて訪れる会場も多く、被災者との交流はより一層広がった。

多くのボランティア団体が復興支援活動を続けているが、いまだ支援が行き届かない地域も多い。

長野教区では、より多くの被災地に笑顔を届けるため、これからも継続的に支援活動を続けていく。

1月

活動

ふれあい交流会、暖かい信州蕎麦・綿アメ・リンゴ提供、銀杏配付、お楽しみ抽選会（信濃むつみ高校生）

27日 夕方『港南西公園仮設住宅』42戸 70食

28日 お昼『名取市市民活動支援センター』50名 50食

夕方 名取市仮設住宅『雇用促進住宅 愛島宿舎』75戸 100食

29日 お昼『小野駅前風の子公園仮設住宅』21戸 50食

夕方『小野駅前ふれ愛北公園仮設住宅』20戸 50食

3月

活動

ふれあい交流会、暖かい信州蕎麦・綿アメ・ポップコーン提供、お楽しみ抽選会

3月31日 夕方『閖上さいかい市場』250食

4月1日 お昼 東松島市『雇用促進住宅矢本宿舎』（新規会場）53戸 70食

2日 お昼『民間借上げ住宅の会』若松会 50名程度

夕方 仙台市内民間借上げ住宅『川内公務員住宅』集会所（新規会場）100戸 70食

6月

活動

ふれあい交流会、暖かい信州蕎麦・綿アメ・ポップコーン・かき氷提供、お楽しみ抽選会・ゲーム大会（信濃むつみ高校生）

9日 夕方 名取市『美田園第3仮設住宅』（新規会場）150名 200食

10日 お昼 名取市『市民活動支援センター』50名 70食

夕方 仙台市『宮城野区扇町4丁目公園仮設住宅』50名 80食

11日 お昼 名取市仮設住宅『雇用促進住宅 愛島宿舎』50名 80食

夕方 岩沼市『里の杜西・東・南・応急仮設住宅』（新規会場）250名 300食

8月

活動

ふれあい交流会、暖かい信州蕎麦・ポップコーン・かき氷提供、お楽しみ抽選会・ゲーム大会

6日 名取市『美田園第2仮設住宅』120名 130食

7日 お昼 東松島市『宮戸小学校仮設住宅』（新規会場）80名 90食

夕方 東松島市『月浜地区仮設住宅』（新規会場）100名 90食

8日 お昼 東松島市『室浜地区仮設住宅』（新規会場）80名 50食

夕方 東松島市『上北谷地地区仮設住宅』（新規会場）50名 60食

11月

活動

ふれあい交流会、暖かい信州蕎麦・ポップコーン・綿アメ・リンゴ配布・お楽しみゲーム大会（高校生担当）・マジックショー

17日 名取市『雇用促進住宅愛島宿舎』60名 130食

18日 お昼『川内借上げ公営住宅（川内公務員住宅）』100名 150食

夕方 名取市仮設住宅『箱塚桜仮設住宅』70名 150食

19日 お昼 名取市集会場『美田園サロン』（新規会場）70名 100食

夕方 名取市仮設住宅『箱塚屋敷仮設住宅』80名 250食

長野教区では、今後も災害復興ボランティアを継続していきます。現地ボランティアにご参加いただける方、支援物資を提供していただける方は下記までお問い合わせください。

「御同朋の社会をめざす運動」長野教区委員会 TEL. 026-234-1796（長野教区教務所内）

※この活動は、皆さまにご賛同いただいた「たすけあい募金」をもとに進めてまいりました。引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

機関誌 きずな 2014年1月1日 ●発行 浄土真宗本願寺派 長野教区 〒380-0845 長野市西後町1653 ●印刷 奥山印刷工業株式会社
TEL.026-234-1796 Eメール nagano-b@io.ocn.ne.jp